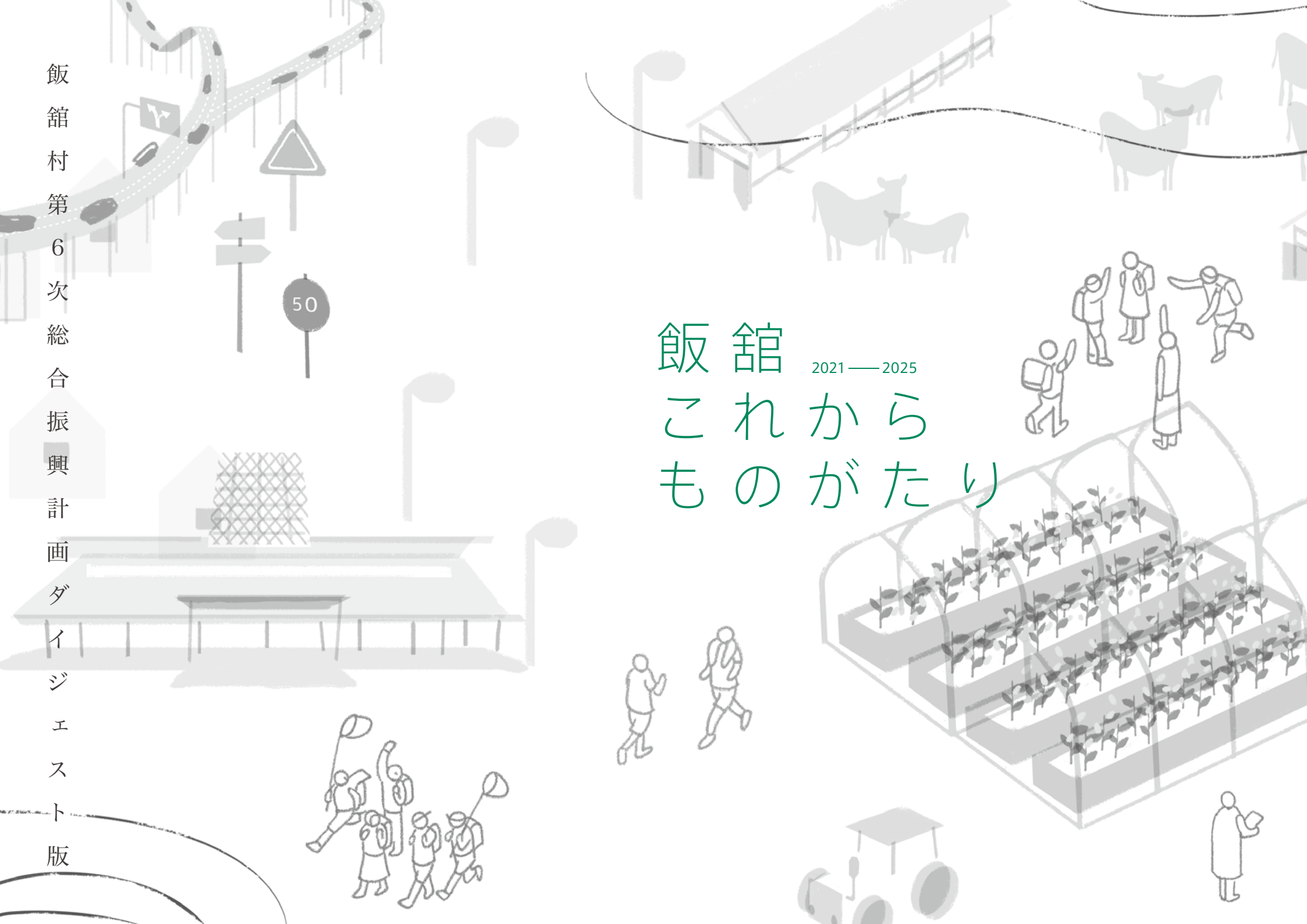


飯館 2021—2025  
これから  
ものがたり





飯館  
これから  
ものがたり

2021 — 2025

# わくわくする、 たのしい 飯館村へ！

あなたが  
飯館村の  
村役です！



すぎおかまこと  
飯館村長 杉岡 誠

この「飯館村第6次総合振興計画」は、30名以上の委員の皆さまがアンケートや地区懇談会などを重ねながら、1年をかけて、策定したものです。

3つの「基本的な考え方」と、4つの「めざす姿」。限られた単語やフレーズの中に委員の方々の様々な思いが込められています。

東日本大震災から10年の時を経て、飯館村は新たなフェーズへと邁進していきます。

私たちが目指すのは「ふるさと」を愛し、楽しみ、その喜びとともにする「ふるさと」の担い手」が手を携える「明日が待ち遠しくなるようなわくわくする楽しいふるさと」です。いいいて希望の里学園生が村民の皆さまから寄せられた詩を編纂した

「希望の詩 from 飯館

くわが村への想い」の一節

きづいて欲しい

ぼくたち、わたしたちの

うつくしい村

のりこえてきた困難を力に

さらに良い村へ

とわに続け ふるさと飯館

に「ふるさとの担い手」の未来への希望と力強い決意を感じています。わたくし自身も「ふるさとの担い手」として、5つの指標を掲げております。

- 1 生きがいと生業の力強い再生と発展
- 2 健康で生き生きと暮らせるふるさと
- 3 情報通信技術による新たなふるさと
- 4 ふるさと資源のフル活用
- 5 生き生きとした学びの場を育む

ぜひこの総合計画ダイジェスト版をご覧ください。委員を始めとする方々が紡いだ言葉と沢山のアイデアに触れ、ふるさとの将来像を大いに語り合ってください。そして自らも「ふるさとの担い手」としての想いを膨らませ、ふるさとを磨き上げていく主役に、またプレイヤーになっていたただきかけの1冊としてご利用いただければ、大変にありがとうございます。

最後になりますが、この計画の策定にあたりご尽力くださった委員の皆さま方をはじめ、ご協力くださった関係各位、すべての皆さまに厚く御礼を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

## 3つの基本的な考え方

第6次総合振興計画は3つの基本的な考え方に沿っています。

1つ目は「ものは引き算」。

品物やお金だけでは手に入らない当たり前の日々の暮らしや、利便さだけを求め過ぎない持続可能な暮らしを大切にしていこうという考え方は、

2つ目は、「じころは足し算」。

多くの方に出番があり、地域や家族で支え合い、お互い様の優しい気持ちで助け合っていこうという考え方は、

3つ目は、「ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも  
いいいて村」。

村に住みたくても住めない方、たまに村に通う方、全国から応援してくれる方、村に住んでいる方……様々なスタイルの暮らし方がある飯舘村で、どのような住み方でも村との関わりを感じられ、多様性を認めよう村を作っていこうという考え方は、関係人口や定住希望者が増えるよ  
うな安心できる村を作っていこうという考え方は、



飯舘  
これから  
ものがたり

2021—2025



# 4つのめざす姿

## めざす姿

### いいたてに生きる精神文化を紡ぎ 自らに誇りをもつ村へ

ふるさとを改めて見つめ直す教育を通じて、子どもも大人もともにいいたての文化を取り戻し、自らに誇りをもつ村を目指します。

## めざす姿

### ゆったり流れる時間の中で 「元気かい？」から始まる 心地いい関係のある村へ

温かな声かけから始める交流を通じて、生きがいを持って健やかに暮らすことのできる村を目指します。

## めざす姿

### 足もとからの将来づくりを 「支え合い」で進める村へ

これまで村を支えてきた行政区の活動など、足もとの生活基盤やつながりを再び強め、支え合いで進める村を目指します。

## めざす姿

### どこに暮らしていても参加して楽しい 新しい豊かさを感じる村へ

村に想いを寄せる方々との新しい関わり合いや村民の新しい暮らしを尊重し、新しい豊かさを感じる産業を作り出す村を目指します。

## 飯館これからものがたり

令和3年度から令和7年度までの飯館村のめざす姿をみんなで考えた、飯館村第6次総合振興計画。この本は、その計画をわかりやすく、何度も手に取って貰えるように、短くまとめ直したものです。「飯館これからものがたり」というタイトルは、「持続可能な地域を残していくということは、親から子へ、ふるさとを語り継ぎ、バトンを渡していく、物語のようなもの。この計画も、みんなで村のこれからを描く物語のひとつとして何度も読んで貰えるものにしたい」という6次総策定委員の話が元になっています。

# この本の読み方

飯館  
これからの  
ものがたり

タイトル これからの飯館村づくりを6個のテーマにわけました。各分野のタイトルを表記しています。

みんなが実践していくプログラム  
実践していくプログラムは、村民一人ひとり、行政区ごと、村全体で、など様々。一人ひとりの力が集まれば大きな力となります。

村で生きる 57

いいたてを語り  
いいたてを喰み  
いいたてと過ごす文化

年中行事や毎日のご飯、伝承や民俗芸能など、日々の暮らしに根付いた村の文化。そんな大切な先人たちの積み重ねを次の世代にもつなげていきましょう。いいたての物語・食・芸能をたずね、楽しみながら村の文化を伝えていきます。

文化・芸能の継承  
● 村の文化財の発掘、保存、継承、発信  
● 震災関連の情報や記録をインターネット上で公開  
● 祭りや文化発表などの支援  
● 文化・芸能について動画や冊子で保存し、インターネットを通じて村内外で広く発信  
● 地域伝承を保存・継承するための活動の支援の検討

暮らしや文化の活性化  
● 学校や地域と連携し、食文化を継承  
● 村の食材や伝統食を活かした食堂の設置を目指す  
● 村で活動や交流した時間を実感し、参加の意欲が高まるように、村の活動に参加した時間をポイント化するなどの仕組みの検討

芸術・文化活動の促進  
● 村民が芸術や文化に触れる機会、習う機会を増やす仕組みの検討

優れた芸術に触れることは感受性を育てます。舞台芸術や演奏会、展覧会などに触れる機会の増加を目指します。

## 現状と目指す姿

飯館村のよいところ、もっと伸ばしていきたいところを書いてあります。今の現状と未来を照らし合わせて未来をつくろう！

## マークの表記について

50 本編に詳しく記載されているページを示しています。

ひとりや少人数からでも取り組めたり、参加できたりするプログラムです。ひとりの行動が村の未来を変えていくきっかけになります。



より詳しく第6次総合振興計画の内容を知りたい方は、役場のホームページに掲載されている本編をご確認ください。  
URL <https://www.vill.iitate.fukushima.jp/soshiki/14/4708.html>  
本編の冊子につきましては、役場ほっとコーナーで閲覧できます。

これからのふるさとに  
必要なお話

1



## 村ではぐくむ

学校教育と社会教育のお話

7 6

2



## 村で生きる

産業と文化のお話

9 8

3



## 村を守る

村の環境と防災のお話

11 10

4



## 村を伝える

村の魅力発信や村内外の交流活性化  
のお話

13 12

5



## 村を支える

道路や交通、財政など村を支える  
土台のお話

15 14

6



## 村で暮らす

安心して暮らす健康と福祉のお話

17 16

### 目次

村長挨拶	1
3つの基本的な考え方	2
4つのめざす姿	3
この本の読み方	4
これからのふるさとに必要なお話	5

みんなの声から生まれたアイデア	18
6次総策定専門部会員コメント	20
数字でわかる飯舘村	22
策定までの流れ	24
	23
	19

## 村ではぐくむ

本編  
50

竹のようにしなやかに  
石のようにどっしりと  
自らに誇りをもつ教育

## 教育環境の 充実

学校に通いやすい環境を整えます。校舎や隣接するスポーツ公園などの充実した村の施設も活かします。

- スクールバスをより細やかに、安心に
- 子どもたちの体力が向上するプログラムを増やす

村の学校は「いたて希望の里学園」として再スタートしました。

「昔はどういう生活だったのかな？」

「おばあちゃんの凍み餅はどうやって作るのだろう」

飯館を知り、飯館を学ぶ。ふるさとを知り、自分自身の誇りとなる。

村ならではの環境を活かし、次のいたてっ子たちを育てます。

## 義務教育学校

として

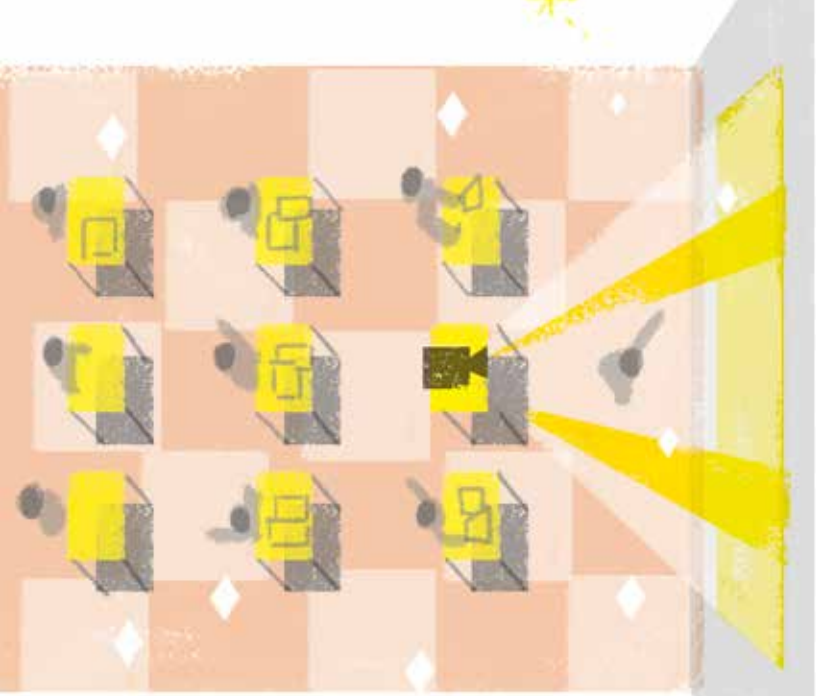
義務教育学校として生まれ変わった学校。その環境を活かしたプログラムを充実させます。

- こども園から9年生まで一貫したカリキュラム
- 児童、生徒、教員が学年に縛られない交流
- タブレットやインターネットなど、最新技術を取り入れた教育
- 少人数学級の利点を活かした授業やサポート

## 飯館で 学ぶ

村に住んでいない子どもたちが多い現状です。ふるさとの歴史、文化、人や産業と触れ合う機会、体験する機会を設けます。

- 飯館村という「ふるさと」を学ぶ教育の充実
- 飯館の食文化を継承していく活動
- 進学、進路に関わる支援強化
- 村内外の子どもや親子が村で共同生活を行いながら通学するプログラムの作成を検討





ふるさとをみつめ  
ふるさとに学び  
ふるさとと歩む教育

学びの場の提供

人は生涯にわたり学んでいくことで、人生を豊かにすることができます。村外に住む方にも、ふるさとを体感できる場を提供できるように検討を進めます。

● スポーツ・文化クラブやサークル活動、社会教育団体の育成・支援の検討

● 修学旅行や国際交流、親子でふるさとの自然を体感できる等の体験学習の検討

● 苦手を克服し、人生をもっと楽しくするための、ライフステージごとの課題に応じた講座の検討

● 司書の配置や読書の面白さを伝える事業の検討

スポーツ活動

スポーツ活動は交流や健康づくりに効果的です。運動公園やパークゴルフ場を活用していきます。

● 運動施設とその他の施設の連携で、村内外からの利用を促進

● スポーツイベントの開催や大会への参加支援、スポーツによる交流の推進の検討

● スポーツ公園やパークゴルフ場の利活用

子どもも大人も地域と関わる機会が減ってきています。暮らしの知恵や技、豊かな自然が詰まっている村だからこそ、そこから学ぶこともたくさんあるのです。「やっぱり飯館がいい!」とふるさとに誇りを持ってもらえる「学び」を増やしていきます。

一人ひとりの関わり合いで  
力を合わせ拡大させる  
までのブランド

### 農業基盤 を整える

農業の再開や拡大  
を後押しする基盤  
を整えます。

- 農業の再開や拡大を後押しする基盤の整備
- 新技術導入による農業の推進の検討
- 各行政区による農地管理や活用支援

### 環境づくりと 働き手・担い手 の確保

既存のやり方に捉われ  
ない、新しい農業との  
関わり方をつくってい  
きます。

- 「飯館牛」復活への取り組み
- 農業の担い手の育成、確保
- 米の備蓄や加工利用による水田の再  
生や活用の推進
- 生きがい農業者の販売や6次化等へ  
の発展を支援
- 繁忙期に短期間の求人募集
- 地域運営組織への支援

### までの ブランド

村の産業に関わる人、関  
わりたい方の意欲を支援  
します。

- 飯館の気候、風土を活かした農畜産物の開発の  
推進
- 販路の確保や新規開発
- 生産者グループの情報発信やPRの支援
- 農業の経営安定化へ向けた支援

村では産業の力強い発展と再生に向けた支援を進めています。  
「新しく農業を始めたい」「地域で法人を立ち上げたい」と、  
自ら活動している人たちもいます。  
いろいろな分野の人が協力し合える距離感も村ならではの魅力です。  
新たな力をかけ合わせ、村の産業を大きく広げていきましょう。

### 森林の保全

森林環境を保全し、山の魅力  
復活、里山再生を進めます。

- 計画的な森林の整備や管理の推進
- 山の魅力復活、里山再生の推進

いたてを語り

いたてを喰み

いたてと過ごす文化

## 文化・芸能の継承

震災を乗り越えて芸能や伝承を残します。村外に住んでいる方も触れられるような仕組みにしています。

- 村の文化財の発掘、保存、継承、発信
- 震災関連の情報や記録をインターネット上で公開
- 祭りや文化発表などの支援
- 文化・芸能について動画や冊子で保存し、インターネットを通じて村内外で広く発信
- 地域伝承を保存・継承するための活動の支援の検討

## 暮らしや

## 文化の活性化

いたてらしさが光る食文化。美味しい食は楽しい場にもなります。楽しく豊かに暮らせる村を目指します。

- 学校や地域と連携し、食文化を継承
- 村の食材や伝統食を活かした食堂の設置を目指す
- 村で活動や交流した時間を実感し、参加の意欲が高まるように、村の活動に参加した時間をポイント化するなどの仕組みの検討

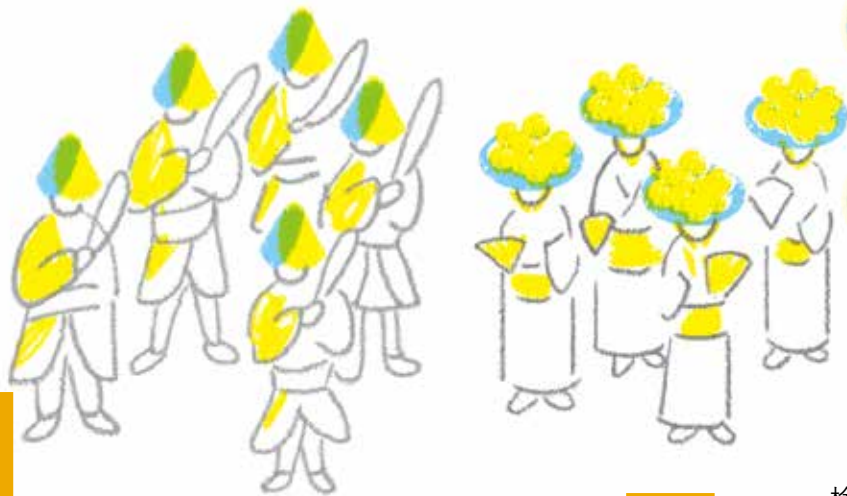
## 芸術・文化

## 活動の促進

優れた芸術に触れることは感受性を育てます。舞台芸術や演奏会、展覧会などに触れる機会の増加を目指します。

- 村民が芸術や文化に触れる機会、習う機会を増やす仕組みの検討

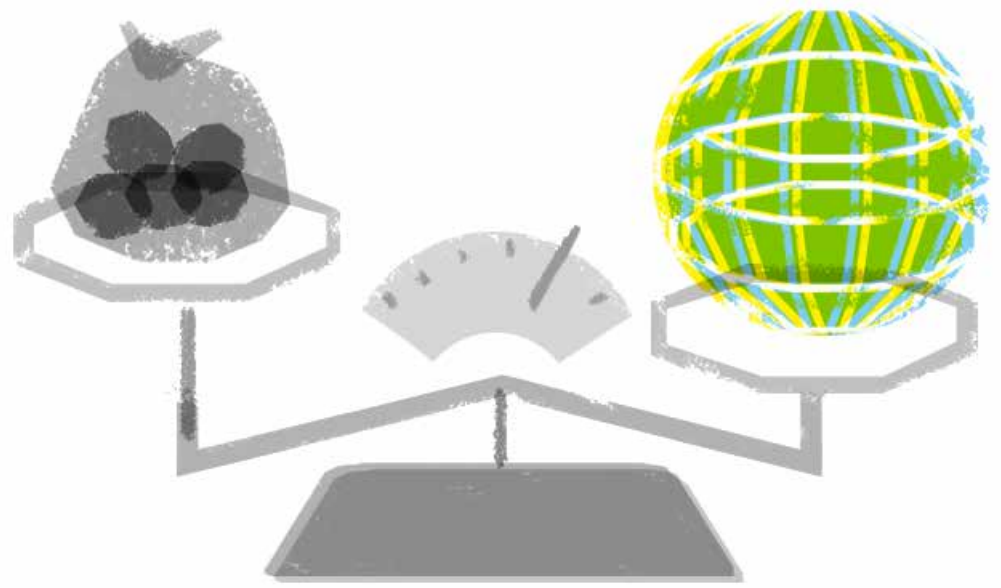
年中行事や毎日のご飯、伝承や民俗芸能など、日々の暮らしに根付いた村の文化。そんな大切な先人たちの積み重ねを次の世代にもつなげていきましょう。いたての物語・食・芸能をたずね、楽しみながら村の文化を伝えていきます。



村を守る 本編 34

未来や心に  
やさしい環境づくり

山や川、里の景色、夜の星空、そこに生きる生き物たち。  
村に住む私たちそれぞれに、心に残る風景がたくさんあります。  
風景や環境を次の世代へも残していきたい。  
そんな未来の誰かを思いやる心を育てていきましょう。



環境負荷  
の低減

100年後も持続可能な村であるために、日々の暮らしから取り組みましょう。

- 生ごみ乾燥機の購入補助など、ごみ減量の推進
- 分別方法の徹底など、ごみへの意識向上
- 地域でごみ収集所の点検を実施し、村は収集所の補修や再設置を支援
- ごみ減量・資源循環の観点から、自給自足の取り組みを支援
- 農業などに再生可能エネルギーを導入する方への支援の検討



村を守る

本編  
61

自分たちの安全は  
自分たちで守る  
強靱な地域防災



防災体制の  
強化

安心して暮らせる村に  
するために村全体の防  
災体制を強化し、災害  
に備えます。

- 各地区でサイレンの管理継続
- 行政区ごとに避難計画、ハザードマップ作成
- 行政区を越えた自主防災組織の検討
- 防災・防犯を学ぶ機会をつくる

安全・安心の  
確保

電波が通じないエリア、人手が  
足りないエリアなど、地域に  
じた安心・安全を確保します。

- 地域の状況に応じた物資の備蓄や情報伝達の手段の整備
- ドローンなど先端技術なども含めた装備の強化の検討
- 放射線対策として、国への要望、各種検査などの継続
- 原子力災害にも対応した地域防災計画の作成

震災を経験し、災害への知恵と考えを深めた私たち。  
台風や火災、地震などの災害は次にいつ起こるか分からないものです。  
自分自身ができること、地域でできること、行政にできること、  
他市町村や県、国に協力してもらいたいこと。きっとたくさんあります。  
みんなで一緒になって考えて、村を守りましょう。  
人口減少、高齢化の中でも、新しい技術を使いながら  
安心して暮らせる防災体制を再構築していきます。



消防・火災  
予防対策

昔から火災に悩まされてきた  
飯館村。村で働いている方にも  
協力してもらおうなど、柔軟  
に対策を考えていきます。

- 村内で日中に働いている方や企業との協力体制を整えることの検討
- 他市町村との応援体制の確保等推進
- 消火器や火災警報器の設置支援の検討

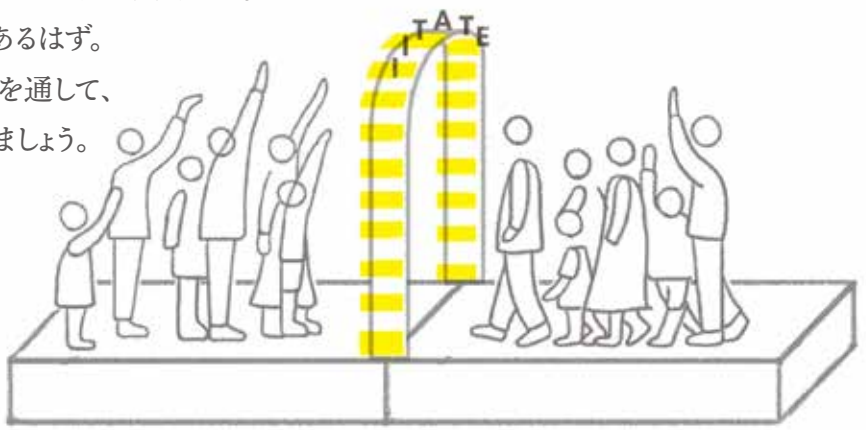




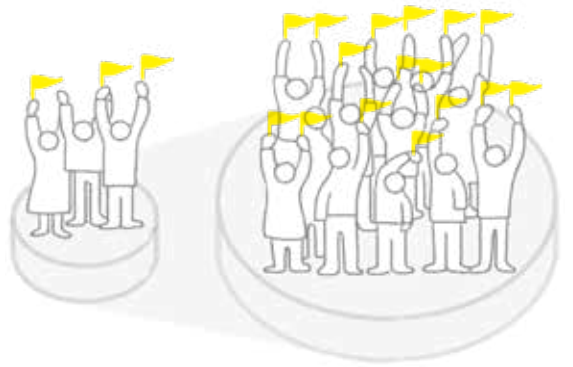
村を伝える

本編 44

資源にひと手間加えて築く  
観光以上、移住未満の関係



花や神社、豊かな自然、歴史、文化、美味しい食べ物、スポーツ公園などの新たな施設。  
そして村が積み重ねてきた震災に関する学びもまた、村の資源です。  
きっとまだ知られていない村ならではの魅力があるはず。  
だからこそ、単なる観光だけで終わらない体験を通して、  
村にもっと関わりたいと思ってくれる人を増やしましょう。



戦略的な  
観光への  
取り組み

村内の各団体や専門家などが集まり、観光・交流事業を検討するチームを組織します。「観光」という形に捉われない新しい取り組みを進めていきましょう。

- 観光パンフレットやホームページ等の見直し・改善
- 村外に向けた情報の集約、発信
- 飯館ならではのツアープラン作成
- 観光や移住に捉われず、多様に村に関わる人を増やす取り組みの実施
- SNS、動画配信によるPRなどの新しい取り組み
- 特産品、土産品の開発
- カーシェアリングなど、観光客の交通手段の確保

いいたてファン  
を増やす  
機会の創出

村内の人が知っている魅力、村外の人だからこそ気づく魅力など、双方が合わされば、もっと「いいたてのファン」を増やすことが可能です。

- 民間による観光施設整備への支援
- 飯館八景づくり、写真コンテストの開催による観光スポットの掘り起こし
- 村内外の人が一体となり、飯館の魅力を発信

モノや心を  
分かち合い、  
ふんわりやつこく  
迎える村

人・モノ・  
コトによる  
結び直しと  
結びづくり

村外にいる人、村内にいる人、新しく村に住む人、村を応援してくれる人。いろいろな立場の方々がそれぞれのやり方で村に関われる仕組みをつくります。

- 移住した方の話を聞ける機会をつくる
- 村に関わってくれる人を増やす
- 村の困りごとみんな解決
- 村外に住む人が農業などを行える仕組みづくり



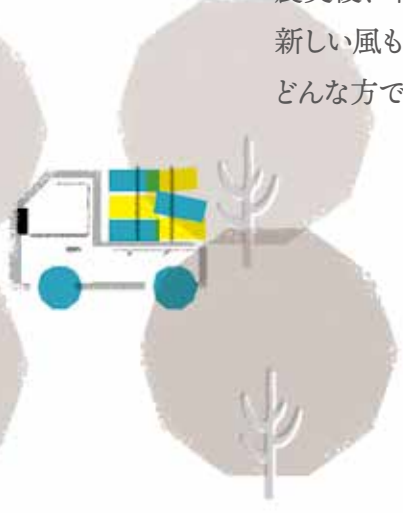
安心して  
定住できる  
環境の整備



「飯舘村に移住すると、楽しいし、安心だ」と言われる村にしていきましよう。

「村で農業をしたい」と村外から通う方、「将来村に戻るから」とおうちを管理しに来る方、「友達や家族に会いたい」と村を訪ねる方。震災後、村に新しく住み始めた100人程の移住者。新しい風も吹き始めています。どんな方でもふんわりやわらかく、迎えられるような村にしたいですね。

- 村民も移住者もお互いに笑い合い、助け合える環境づくり
- 空き家、空き地を活用
- 空き家管理の仕組みづくり
- 村民と移住者の交流イベント支援
- 移住者が頼りにできる人をつくりやすい環境づくり



村を支える

本編 65

助け合いで築く  
誰もが安心して暮ら



公共交通の確保

今後、自動車運転免許を返納する世代の方が増えていきます。車を持たなくても生活しやすい交通を整備することを検討します。

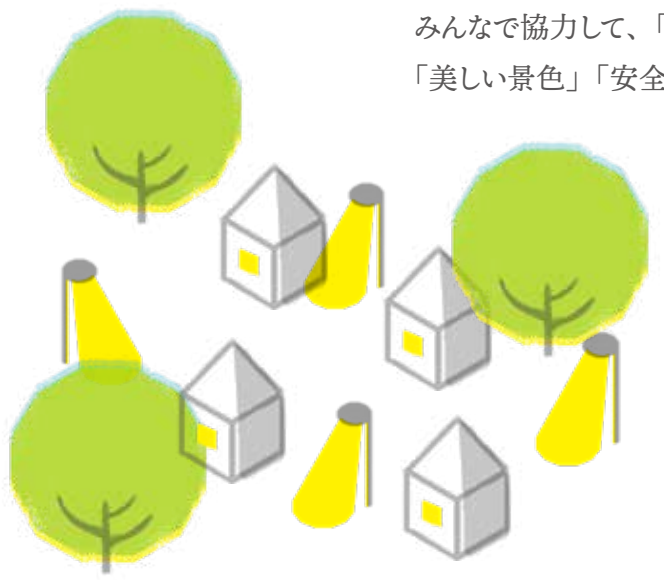
- 自家用車を用いた住民主体の乗合タクシーや村営バスなど移動手段の整備の検討
- 路線バスと村営バスの連携の検討
- 公共交通に関する情報提供と利用促進

住環境の維持・管理

「日本で最も美しい村」連合に加盟する村として美しい景観を守りながら、安全で暮らしやすい村づくりを進めます。

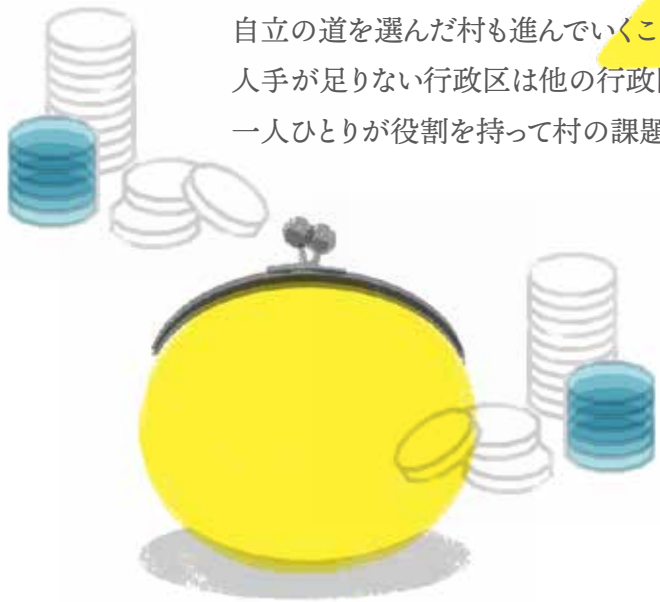
- 村の美しい景観の保全・継承
- 村民との協働による村道の維持、補修
- 基幹道路、村民の生活に密着した道路の整備
- 街路灯、防犯灯が必要な場所の調査と整備
- 住宅用のLED防犯灯設置の支援の検討

高齢化が進む中、誰もが安心して暮らせる生活環境がますます重要になっています。  
みんなで協力して、「車がなくても安心して生活できる交通」  
「美しい景色」「安全な道路」などを目指していきましょう。



## 連携して 課題に立ち向かえる 自立した地域

震災前から行政区ごとの地域別プランを立て、  
独自の道を歩んできた私たち。  
村民や各行政区が支え合い連携しているからこそ、  
自立の道を選んだ村も進んでいくことができます。  
人手が足りない行政区は他の行政区とも連携しながら。  
一人ひとりが役割を持って村の課題に取り組んでいきましょう。



### 地域連携と 村民参加の 推進

行政区内や異なる行政区同士で支え合える仕組みづくりを推進します。

- 行政区または複数行政区合同での地区別計画の策定
- 新たな地域コミュニティのあり方を検討
- 共助、自助に向けた人材、組織づくり
- 村民が村政に関わりやすくなる仕組みづくり

### 時代に 対応した 行財政運営

今後も健全な財政運営を継続しつつ、村民のために時代に対応したサービスを提供していきます。

- ふるさと納税の活用などによる村の収入確保
- 経費の節減、合理化、コスト意識の徹底
- 効果的な予算配分と各種補助金の見直し
- 行政サービスをより便利にする仕組みの導入を検討

## 村で暮らす

本編 23

### 健康づくり 楽しい 食べて笑って

#### 交流による 健康づくり

交流の機会が増えたと、食べるこ  
と・動くこと・笑うことも自然と  
増えます。「気軽に行ける」そんな  
交流を増やしていきます。

- 行くのが楽しい！健康診断
- 健康づくりにつながるイベントの実施
- 気軽に行える運動を広める

#### 心と身体の 健康づくり

健康には、「心」と「身  
体」が重要です。怪  
我や病気を予防する  
こと、日常生活を整  
えることが必要とな  
ります。そのための  
支えも充実させます。

- 介護予防、認知症予防
- 体を動かす暮らし
- ほっとできる場づくり

#### 人が決め手 良かったの 味づくり

「食」は健康とは切つて  
も切りはなせないもの。  
健康的な食べ方、食を  
通じた交流で「いた  
たの味」を守っていき  
ます。

- 健康料理コンテストの開催
- キッチンカーによる地域交流活性化の検討
- 行政区などで健康的な食生活の推進

#### 健やかに 人生を全う できる医療

地域の医療体制の充実  
は、村に住む方にとっ  
ては重要な課題です。  
村内でも安心して過ご  
せる体制づくりを進め  
ます。

- 村内外の医療機関との連携
- 通院しやすい環境づくり

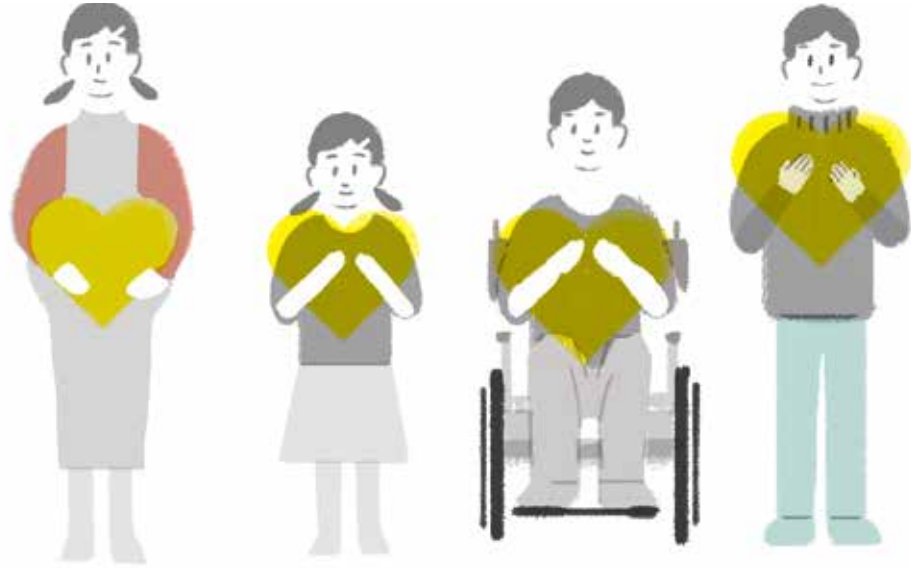
日の出とともに外へ出て、  
「<sup>めい</sup>結」のシステムで地域とつながり、動いて、笑って、食べて。  
考えてみれば村はずっと健康的な生活を行っていました。  
村内にいる人も、村外にいる人も、「今のいたて」でできる  
「食べて笑って楽しめる」健康づくり。やってみましょう。





# 「出番」を 作るしかけづくり

「おはよう、元気かい？ なにか困っていることはない？」  
朝からそんな会話が聞こえてくる。村ならではの風景です。  
人口減少や高齢化を迎える日本。  
村に息づく、「お互い様」の気持ちをふくらませていきましょう。



## 高齢者 子育て 障がい者支援

支援を必要とする方が  
孤立することがないよ  
う、居場所や仲間をつ  
くることが出来る支援  
を行います。

- 在宅福祉サービスの再開検討
- 子育て支援センターの再開
- 障がいの雇用や仲間づ  
くりの場を提供
- 自ら発見し、挑戦して感謝  
を忘れない子どもを育てる

## みんなの

## 出番づくり

年齢や状況に合わせたその人な  
りの「出番」をつくることで健  
康でいられる期間が延びると言  
われています。

- 村民同士の助け合い（地域お  
助け合い事業）の拡充 ●
- 地域の見守り体制の維持
- 村民同士で取材し合う仕組み  
による出番づくり ●
- いいたてホームの人材確保の  
推進
- 村外からの応援・協力の促進

# みんなの声から 生まれたアイデア

6次総計画書は、みんなの語り合いの中で生まれたアイデア事業がたくさんあります。ここではその一部をご紹介します。



## 村民取材班 一人ひとりが主役

アイデア  
テーマ



村民それぞれが得意なことをお互いに取材し、動画で発信するという、ICTを生かしたアイデア。草刈り名人、漬物名人、動画名人…誰もが生きがいを持ち、一人ひとりが主役になれる村に。

6次総計画書本編 P32/ 福祉

## しみじみマスター ふるさと愛



村の郷土料理や食文化について、素材の栽培から加工、調理までを体得できる生き生きとした学びの場をつくり、ふるさと愛を育みます。君がしみ大根、しみ餅、しみ豆腐マスターだ！

6次総計画書本編 P52/ 学校教育

## 健康 食文化を次世代へ

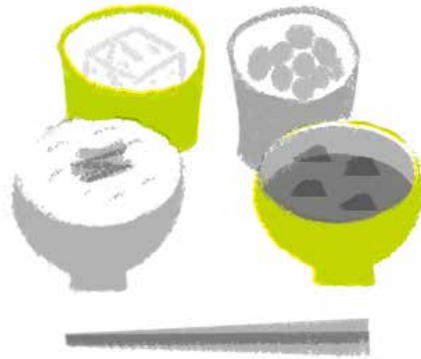


健康料理コンテストの開催など、健康的な料理による生き生きと楽しく暮らせるふるさとづくりを進めながら、村産食材の復活など、村の食文化を次世代へ繋ぎます。

6次総計画書本編 P26/ 健康



みんなで作る飯館の未来



飯館の食文化を伝える食堂を開設。送迎や地域を回れる仕組みも考え、村の人が集まれるような場に。伝統食や村の食材を提供します。

6次総計画書本編 P60/ 文化

い  
いたて  
食堂

食を通じたコミュニティ

他にもたくさんのアイデアが生まれました！

住民主体の移動手段整備推進 | 6次総本編 P66/ 建設

地域お助け合い事業内容拡充推進 | 6次総本編 P31/ 福祉

短期間求人募集制度構築 | 6次総本編 P38/ 産業

生きがい農業者等ステップアップ支援 | 6次総本編 P41/ 産業

在宅医療推進 | 6次総本編 P28/ 健康



村のしばれるような寒さはマイナスに捉えられがちですが、ふるさと資源のひとつとしてプラスに捉え直します。冬にキャンプを行い、親子の交流につなげます。冬の飯館は息を呑む美しさです。

6次総計画書本編 P55/ 社会教育



ふるさとの野山や史跡を歩く学びツアーの実施。親子のふれあいやふるさとの自然を体感することで「学び」が楽しく感じられるはず。

6次総計画書本編 P55/ 社会教育

厳

寒  
キャン  
プ

村のマイナスをプラスに

里

山  
学  
び  
の  
ク  
ロ  
カ  
ン

村の自然を活かす



村の子どもたちが共同生活を行いながら通学する合宿や、村内外の子どもや親子を短期的に受け入れる留学事業。子どもたちの心の成長につながります。

6次総計画書本編 P53/ 学校教育

い  
いたて  
留学

子どもたちに心の成長を



地域の文化・芸能を動画や冊子などにまとめ、次世代に繋げます。動画をSNS等で発信し、世界中でも見られるようにしていきます。

6次総計画書本編 P58/ 文化

い  
いたて  
よう  
つ  
べ

文化・芸能を伝えたい

## 健康・福祉・環境部会

これから先もっともっと村は明るく発展して次の世代へとつなげていくことを願っています。

菅野 一代／村民

村で大切にされてきた人と人、地域との繋がり。結の力で村ならではの支え合いの福祉をつくっていきましょう。

安齋 香／社会福祉協議会

飯舘村の将来を熱く語るメンバーたちから元気を貰いました。みんなで頑張って一歩ずつ進んで行きましょう。

鳴原 やすえ／いいたて福祉会

どこに住まいを構えようとも「飯舘村」に寄せる思いを尊重しながら、顔のみえるものになればと思います。

鈴木 典夫／有識者 福島大学

一個ずつ課題をクリアしていくことが大切のかなぁと思いつながりながら参加させていただきました。

高橋 政彦／村職員

新しい総合振興計画策定に携われたことを嬉しく思います。計画が村の発展のため活用されることを願います。

糯田 文也／村職員

私は特に食事や運動などの健康分野について計画づくりに参加しました。楽しく健康的な食事を続けたいです。

國分 志保理／村職員

凍てつく寒さ、人の温かさ…飯舘をまるごと感じながら、出会いとつながりを大切に5年後へ向かい歩みたいですね。

菅野 奈央／村職員

部会の皆さんと共に広く飯舘村を考えることで今までの飯舘村とこれからの飯舘村を考える事が出来たことは素晴らしい学びだったと思います。

大内 亮／村民

策定期間は、かけがえのない貴重な時間となりました。5年後の飯舘村が村民にとって、より良い未来になっていることを期待します。

木幡 悦子／村民

飯舘村を深く知らない私がこんな重大な役割を任せていただいたのかと悩みましたが、私だからこそと考えを改め参加しました。委員会、部会に参加していくと沢山のことを学びました。

花井 由貴／村民

長期計画、住民参加型の重要性を感じましたし、時間がない中で意見交換しながら進めていく難しさも感じました。毎日少しの時間でも村のことを考えていけば、とってとっても良い村になると確信が持てました。ありがとうございました。

山田 豊／村民

## 産業・観光・移住部会

飯舘村のこれまでの取組をふまえ、これからの地域づくりについて若手村民委員と現場目線で考えました。

岩崎 由美子／有識者 福島大学

一つ一つの会議は、村の方々の思いや情熱を感じ取り、村をよくするため、共に考え抜いた貴重な時間でした。また施策の実施に向けて、みなさんとともに頑張りたいと思います。

齋藤 博史／村職員

好き勝手に夢や理想を語っているうちにワクワクして前向きになることができました。次は皆で実現ですね。

椛澤 博一／村職員

飯舘村の進路を様々な立場や角度から検討していく過程で、村民の方々の生の声や思いに触れることができました。このことを忘れずに、よりよい未来になるよう励んでまいります。

瀬川 雅幸／村職員

## 防災・建設・行財政部会

高齢化が進む中、「移動」に不自由を感じる人々が増加しています。移動を支えるための公共交通を、今後、「共助」により育てていくことが重要です。安心して移動できることは、安心した生活を送ることに繋がります。

**村上 早紀子／有識者 福島大学**

震災原災復興は、まだ道半ばではありますがこの振興計画を基に新しい村づくりや復興に期待します。

**松下 貴雄／村職員**

新しいふるさとづくりの指針となるこの計画を、今度は村民の皆さんと行動に移していくのが楽しみです。

**伊藤 博樹／村職員**

計画策定に携わり自身も学ばせていただきました。本計画の事業実現により、村民も地域も災害に負けない強靱な村に向かって前進することを期待します。

**草野 健太郎／村職員**

防災のことなど、村の将来についてみんなで考えることができました。

**川村 仁／村民**

この度、策定委員会及び専門部会に関わる事ができ具体的に村の現状を知る事ができました。

**濱田 幸成／村民**

村に関わる誰もが希望が持てる明るい村の未来計画書ができたと思います。これからの飯舘村が楽しみです。

**庄司 栄伸／村民**

財政のしくみや、人口の増減が行政にどんな影響を及ぼすのかなど、詳しく知ることができ、大変勉強になりました。

**松林 りか／村民**

## 教育・文化部会

ふるさと。計画の策定のなかで何度も交わされた言葉。一人ひとりのふるさと飯舘があるのだと思いを新たに。

**天野 和彦／有識者 福島大学**

個性あふれる部会メンバーと共に策定した6次総。村を見つめ直し、将来を考える良い機会でした。

**荒 真一郎／村職員**

互いの意見を尊重し、明るい未来に向けて、年代を問わず住民が楽しめる事業を、自分たちも楽しみながら検討できました。

**今野 智和／村職員**

各部会員の飯舘村への思いが詰まった内容だと思います。その思いを伝えていって欲しいと思います。

**菅野 弘美／村職員**

部会員の皆様と共に令和3年から5年間の飯舘村のあるべき姿を検討してまいりました。コロナ禍もありましたが、飯舘村の将来を深く考え議論を尽くして辿り着いた「これからののがたり」に大いに期待したいと思います。

**草野 周一／村民**

私自身が生まれ育った飯舘村の明日(未来)について真剣に考え、話し合いを通し携われ良い経験ができました。ありがとうございました。

**佐藤 義幸／村民**

幅広い年代の多くの方に、これから実現出来る飯舘村の良さを、特色ある内容を伝えようと考えました。

**庄司 幸夫／村民**

教育・文化部会の委員として学校教育と社会教育について今後5年間で出来る事ややりたい事・やって欲しい事を話し合ってきました。個人的にですが、学校司書の配置を切に願います。

**星 貴弘／村民**



# 数字でわかる 飯館村の現在

## 村の人口

飯館村の令和3年2月1日現在の人口は、5229人で、村内居住者数は1482人です。村内外の力を合わせながら、みんなで支え合っていきましよう。

村内居住者数

1482人

村全体の人口

5229人

## 健康寿命

飯館村の伝統食や畑仕事などの運動が村の健康を支えてきました。村の健康寿命は、国や県の健康寿命とほぼ同じです。これからも、日常的な運動や健康的な食事を続けましよう。



男性

78.5歳

女性

84.0歳

## 生き生きとした教育

令和2年4月現在、飯館村の義務教育学校の児童・生徒数は65人。認定こども園に通う人数は52人。飯館村は、学校だけでなく村全体が学びのフィールド。子どもたちの本来の好奇心をさらに加速させ、生き生きとした教育を進めます。



認定こども園に通う子どもの数

52人

義務教育学校の児童・生徒数

65人



## 信号機の数 5箇所

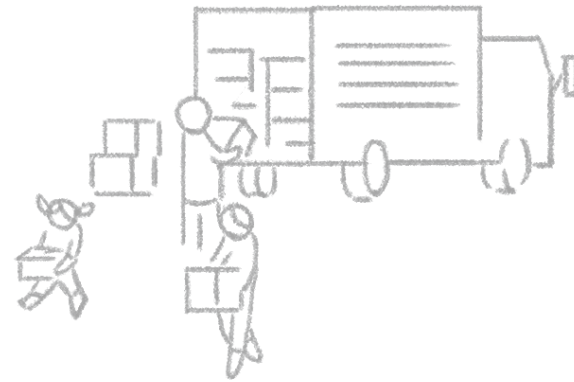
飯館村の信号機の数 は5箇所。どこにあるかぜひ数えてみてください。ちなみに飯館村に張り巡らされている村道の総距離はおよそ250キロ。渋滞や信号待ちの時間がほとんどありません。実は飯館村は交通の要所。浜通りと中通りをつなぐ要です。



## 村の新しい声 新規転入者の数

飯館村は震災後に180人以上の転入者がありました。その内100人以上が定住希望者であり、貴重な新しいふるさとの担い手です。古き知恵も生かしながら新しい声にも耳を傾けましょう。

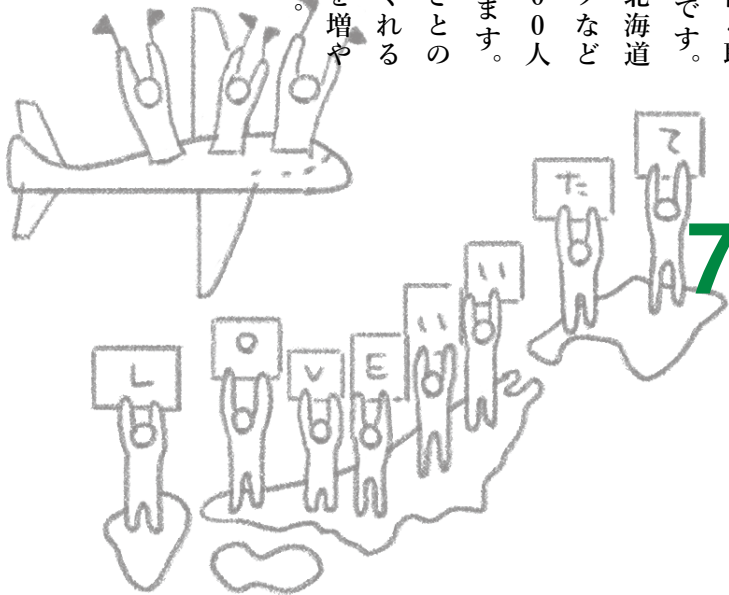
180人以上



## ふるさと住民の数

飯館村ふるさと住民制度は、村に関わりたいというファンを作る取り組みのひとつです。ふるさと住民は北海道や鹿児島、ドイツなどの海外まで、700人以上の人数がいます。これからもふるさとの担い手になってくれる飯館村のファンを増やしていきたいでしょう。

700人以上



# 策定までの流れ みんなで作った総合振興計画

**1**  
総合振興計画の  
策定委員会がスタート！  
飯館村の未来を見据えて  
村の代表、有識者、村役  
場の職員で、総合振興計  
画の策定委員会が発足。  
2019年9月

**2**  
みんなの声を  
アンケート調査  
村に住民票のある中学生以上  
の村民を対象に村づくりの意  
見を募集。  
2019年9月

**3**  
村の計画を考える  
4つの部会を発足  
「健康・福祉・環境部会」  
「産業・観光・移住部会」  
「教育・文化部会」  
「防災・建設・行財政部会」  
2019年9月

**4**  
各部会ごとに  
村の声をあつめました  
部会別に村民参加でさらな  
る意見や方針を話し合う懇  
談会を重ねました。  
2019年10月～2020年7月

**5**  
総合振興計画の完成  
パブリックコメントか  
ら更に計画を検討、審  
議会を経て総合振興計  
画が策定されました。  
2020年9月

**6**  
総合振興計画の実施が  
スタート！  
いよいよ、策定された  
計画をもとに、みんな  
の村の未来をつくって  
いきます。  
2021年4月

まずは、この本を読んでみて「これなら  
できるかな」と想像してみてください。  
村は参加者、協力者、発起人を随時募集  
していきます。

「村の魅力や困りごとは何だろうか？」  
というところから、村をより良くする  
アイデアを出し合いました。





